



令和7年
5月

大砂土東小学校 学校だより

学校教育目標

心ゆたかに かしく たくましく

自律の精神と感謝の姿勢 ～子どもファースト～

校長 石川 顕一



▲力を合わせて片づける

学校の桜は、薄桃色から緑色に変わりました。すがすがしい季節の到来です。教室の仲間や先生にもだいぶ慣れたようで、教室でも校庭でも元気な声が聞こえるようになりました。

先日の書店での出来事です。子どもが「〇〇の本を買ってほしい。」と母親に懇願していました。読書離れが叫ばれる昨今、感心な子どもだと思って見ていましたが、その母親は「そのシリーズはたくさん持っているでしょう」と取り合わず、「あなた

には△△の本がいいんじゃないの」と子どもを誘導します。

この場面は、母親にしてみると、子どもに読ませたい本を与えるのが「子どもファースト」で、子どもにしてみると、自分で考え自分で決められるのが「子どもファースト」です。この母親と子どもでは捉え方が違うのです。

さて、この「子どもファースト」、言い換えれば「子どもの幸せ (Well-being) を第一に考える」とはどういうことなのでしょう。

まずは、目の前で辛い思いをしている子どもに対して、その気持ちに寄り添い共感することだと思っています。涙を流している子ども、元気のない子どもを放っておけません。

次に、未来を幸福 (Well-being) に生きるためにと、「自分で考え、自分で判断・決定し、自分から行動する自律の精神」を身に付けさせることも、子どもの幸せを第一に考えていると言えましょう。加えて、尊敬・感謝の姿勢、折り合いをつける力、感情をコントロールする力なども身に付けさせることも子どもの幸せ (Well-being) には不可欠でしょう。

子どもは、私たち大人よりも長く生きていきます。いずれ親元を離れます。親はずっとそばにいられません。自律の精神と感謝の姿勢が、人生を歩む上での羅針盤になるはずです。

上の書店の話は、学校でもご家庭でも起こりうることです。限られた時間の中で効率よく事を進めようとする時、一方的な指示になりがちです。これが慢性化すると、子どもは自分の意見を言わなくなったり自分で決められなくなったりしてしまうようです。

大砂土東小学校では、子どもたちの気持ちに寄り添うとともに、自律の精神と感謝の姿勢が身に付くように指導してまいります。未来を生きる子どもたちのために、学校と家庭・地域が同じ方向を向き、互いに力を尽くしてまいりたいと存じます。何卒よろしくお願いいたします。